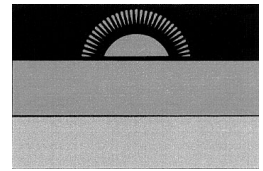


Kwacha(クワチャ)はチェワ語で「夜明け」を意味します。

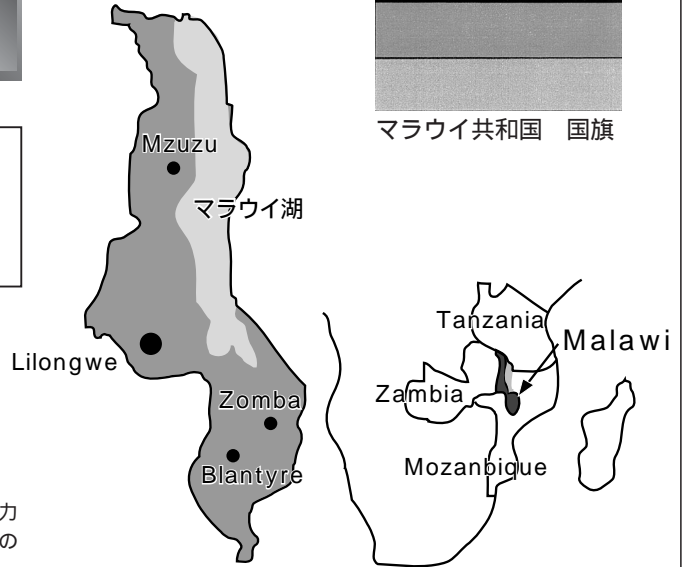


マラウイ共和国 国旗

編集・発行：日本マラウイ協会
 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付
 Tel. 03-3568-0908 Fax. 03-3568-3585
 Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
 E-mail hi-ueda@mwc.biglobe.ne.jp

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
 人口：1044 万人 (1997 年推計) 首都：リロングウェ
 独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
 政体：共和制、大統領：バキリ・ムルジ
 為替レート：US\$1 = MK 43.50 (8 月 7 日現在)
 MK 1 = 2.6651 円 (8 月 7 日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】
 日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を
 通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の
 上、広く各位の入会を希望します。
 会員数：269 人 (8 月 1 日現在)



バキリ・ムルジ氏、再選 ~大統領・国会議員選挙~

6 月 15 日、マラウイで複数政党制による 2 回目の大統領・国会議員選挙が行われた。大統領には統一民主戦線 (UDF) 党首の Bakili Muluzi 氏がマラウイ議会党 (MCP) 民主連合 (AFORD) 統一候補の Gwanda Chakwanba 氏を破り再選され、2 期目 (最終) の 5 年間を務めることになった。6 月 18 日、選挙管理委員会が発表した公式票数は次の通り。

政党	候補者	票数
UDF	Bakili Muluzi	2,442,685
MCP/AFORD	Gwanda Chakwanba	2,106,790
MDP	Kamulepo Kaula	67,856
CONU	Rev. Mnkumbwe	24,347
UP	Bingu wa Mutharika	22,073

選挙人登録総数 5,071,822 人のうち、投票総数 4,755,422 票 (投票率 93.76%)、有効投票数 4,663,751 票、無効票 91,671 票となっている。

大統領就任式は 6 月 21 日、ブランタイアのチチリ競技場にモザンビーク大統領らの外国元首らを招いて行われた。

一方、国会議員選挙では 193 議席中、UDF が 93 議席と第一党を占めたが、単独過半数の 97 議席には 4 議席足りない結果となった。MCP は 66 議席、AFORD は 29 議席、無所属 4 議席となっている。なお、選挙期間中にムチンジ西選挙区で候補者が死亡したため、1 議席欠となっており、補欠選挙が行われる。

大統領選挙の結果をめぐっては MCP/AFORD 連合が、当選者とされた Bakili Muluzi 氏も次点の Gwanda Chakwanba 氏もその票数は憲法の規定による「選挙人登録総数の過半数」を満たしていないとして、選挙の無効を裁判所に訴えている。(ニュースソース: Malawi

News Online の選挙特報から) 第 17 回通常総会開かれる

日本マラウイ協会の第 17 回通常総会が 5 月 8 日 (土) 15:00 から、東京・広尾の青年海外協力隊 (JOCV) 広尾訓練研修センターで開かれた。

秋山忠正会長の挨拶に続き、新任の駐日マラウイ大使 Bright S. M. Mangulama 氏より挨拶があった。大使はこれまでのマラウイでの協力隊活動を感謝されるとともに、同地で生活経験をもつ隊員 OB/OG こそがマラウイのことを日本社会に伝える真の大使であり、両国の相互理解を深める重要な鍵となると評価された。また、大使館としても、これまで培ってきた日本マラウイ協会との関係を一層深め、活動に協力していきたいと表明された。



挨拶する駐日マラウイ大使

議事に入り、第 1 号議案では国際協力フェスティバル 98、国情セミナー・懇親会、島根県高田小学校と現地カチレ小学校の交流支援などを中心とする平成 10 年度事業報告と決算報告が行われた。第 2 号議案では、チェワ語辞典改訂版発行、100 万円相当のプロジェクト実施検討を含む広報活動、文化活動、国際協力活動、組織活動等の平成 11 年度事業計画案と予算案が説明され、両議案とも満場一致で承認された。

第 3 号議案では、3 期 6 年にわたり会長としてご尽力された秋山忠正氏の顧問就任、数原孝憲 前アイルランド大使 (元青年海外協力隊事務

局長) の会長就任を含む役員改選が行われ満場一致で承認された。

第 4 号議案ではいわゆる NPO 法に基づく特定非営利活動法人格取得が提案され、今後 1 年をかけて取得するかどうか検討することになった。

総会の締めくくりとして、秋山前会長と数原新会長の引継ぎを兼ねた挨拶があった。新会長は、徐々に戻ってきた広尾をベースに、会員とともに日本とマラウイの相互理解、発展、友好親善のために力を尽くしていきたい旨述べられ、また、秋山前会長へはこれまでの労に対し、出席者全員からお礼とねぎらいを込めた拍手が送られた。

日本マラウイ協会役員一覧

名誉会長	ト部敏男	初代マラウイ大使
顧問	秋山忠正	日本マラウイ協会前会長
会長	数原孝憲	前アイルランド大使
専務理事	貝塚光宗	青年海外協力協会理事長
理事	渥美堅持	東京国際大学教授
理事	池田憲彦	拓殖大学教授
理事	岡田啓一	日本シルバーボランティアズ専務理事
理事	河原昭男	アフリカ開発協会専務理事
理事	堀添勝身	ユースワーカー能力開発協会理事長
理事	稲田武司	初代マラウイ駐在員
理事	保坂 努	神奈川県議会議員
理事	小松健太	千葉県松戸市役所
理事	山村俊之	青年海外協力協会理事
理事	中小原淳	団建築設計事務所代表取締役
理事	藤村俊作	八戸工業高校
理事	鶴田伸介	地域計画連合
理事	吉田 均	磯村豊水機工
理事	上田秀篤	KDD株式会社
理事	室伏春彦	警視庁
理事	進藤寿則	クリエイトラボ代表
理事	河野 進	KDD株式会社
理事	中川 総	時正会 佐々総合病院
理事	佐藤賢三	ピレリ株式会社
監事	竹内明久	青年海外協力協会理事
監事	松平隆一	

国情セミナーと「シマを食べる会」

日本マラウイ協会主催のマラウイ国情セミナーと「シマを食べる会」(懇親会)が、同国独立 35 周年を記念して 7 月 3 日(土)東京・広尾の青年海外協力隊広尾訓練研修センターで開催された。



国情セミナーの様子

国情セミナーは午後 2 時から 2 階の大会議室で始まり、駐日マラウイ大使 Bright S. M. Mangulama 氏が講師として約 1 時間にわたって、最近のマラウイ情勢や日本との関係について講演と質疑応答を行った。

午後 3 時過ぎからは、会場を 1 階の食堂に移し「シマを食べる会」が行われた。会場には国情セミナーの参加者をはじめ、在日のマラウイ人や国際協力事業団 (JICA) 研修生、大使ご夫妻と大使館スタッフ並びに御家族、遠くは愛知県や奈良県からの参加者もあり、総勢は 60 名を超えた。

初めにテーブルによるマラウイ警察音楽隊のマラウイ国歌演奏があり、続いて研修センター玄関横の慰霊碑前へ移動して物故隊員へ献花を行い、全員で 1 分間の黙祷を行った。

再び食堂へ移動し、本年 5 月の第 17 回通常総会で会長職が秋山忠正氏から数原孝憲氏(元青年海外協力隊事務局長、前アイルランド大使)へ引継がれたことが報告された。続いて数原氏の独立 35 周年を祝う挨拶の後、マラウイ大使の答礼が行われ、秋山氏の乾杯の音頭で会は始まった。

会場のいたるところでは、同期隊員や同じ時期にマラウイにいた OB/OG、また派遣年次の全く異なる OB/OG 達の輪ができ、新旧マラウイの話題に花が咲いていた。中には 19 年ぶりの再会となった OB/OG もいた。



全員で記念撮影

会では、大使館提供の現地産とうもろこしの粉を使って、大使館職員夫人と OG の協力により、現地主食「シマ」が調理された。「シマ」と共に、「デュオ」(おかず)も作られ、参加者は懐かしいマラウイの味を満喫した。また、本年 4 月にマラウイを再訪した OB が持ち帰った木彫りや、チョンベティー(マラウイ産紅茶)現地隊員製作の 1999 年 JOCV カレンダーなどを景品にくじ引き大会が行われ、当選者は歓喜にわいていた。

最後に来年の再会を約して参加者一同で記念撮影を行い、盛会のうちに散会となった。

国情セミナーの主な内容

(1) 大統領選挙

6 月 15 日に複数政党制下での第 2 回大統領選挙(同時に国会議員選挙も)が行われた。登録有権者数は約 500 万人で、そのうち約 480 万人が投票した。5 人の候補者が立候補したが、UDF 党首で現職の Bakili Muluzi 氏が再選され、今後 5 年間、2 期目を務めることになった。6 月 21 日に就任式が行われた。

しかし、選挙結果が 6 月 18 日に発表される前に野党側は選挙事務手続きに疑義があるなどとして、選挙管理委員会に結果を発表しないことを求める訴えを裁判所に起こした。憲法では発表後 48 時間以内に限り結果についての訴えが認められていることから、この訴えは取り下げられたが、発表後に票数が憲法の規定を満たしていないとして提訴され、現在も係争中である。

(2) 経済

国民の約半数が貧困レベル以下の生活をしているマラウイにとって、貧困緩和プログラム成功の鍵は経済の成長にある。1992-94 年は高いインフレになり、経済指標は下がった。政府は行政サービス部門の削減や公共事業の民営化、投資の誘致を進め、昨年 46% の通貨切り下げを行い、対外競争力を高める努力をしている。主産業のタバコは一般農民でもオークション(せり)に出せるように自由化するなど、産業の自由化・育成を図っている。十分とは言えないまでも、総合的にはよい方と評価している。

(3) 農業

主食のメイズ(とうもろこし)の収穫量は天候に大きく依存する。昨年来、地域によっては豪雨があたり、干ばつがあたりしたが、全体的には今年の収穫量は昨年より遙かによいと推定され、国民の消費量以上ある。

(4) 教育

政府は教育にも力を入れている。1994 年に初等教育を無料化した。しかし今度は先生が不足するようになった。高等教育機関として、北部のムズズに国内第 2 の大学を設立した。

(5) 安全

犯罪の増加は世界的な傾向であるが、マラウイも例外ではない。政府は犯罪撲滅に努力しており成果を見せつつある。マラウイは従来から種族間抗争がないのを誇りにしており、国全体としては団結している。これは今後も続けていきたい。

(6) 日本との関係

日本からは 1971 年以来、JOCV の若人を受け入れ、マラウイ社会の各分野で技術協力・移転に努力していただいております。感謝にたえない。日本とマラウイの相互理解、関係を深めるためにも非常にいいプログラムである。また、日本は農業、灌漑の分野でもメジャーな援助国であり、今後もこれらの関係が一層深くなることを期待する。

昨年の一瞬、東京のマラウイ大使館が閉鎖されるという報道があったが、現実に私(マラウイ大使)が今回着任したわけであり、閉鎖されることはないはずだ。大使の役割はマラウイへの投資を引きつけることと理解しており、この方面へのご協力もお願いしたい。

《マラウイ短信》

この欄のニュースはデンマークの「Malawi News Online」から抜粋し要約したものです。各項目の冒頭の日付は同ニュースの配信日を示しています。

日本マラウイ協会は同紙と配信契約を結び、記事の要約・掲載について許諾を得ています。記事の著作権は同社に帰属します。

エア・マラウイ機に爆弾?

【6 月 12 日】

5 月 31 日、リロングウェ国際空港当局に、ブラントアヤ行きのエア・マラウイ機に爆弾があるとの匿名の電話があり、同機は大混乱になった。電話の主はアジア訛で、飛行機離陸の数分前に警告を繰り返した。乗務員が爆発のおそれがあると告げると、30 人の乗客は先を争うように機の外に出たという。その後、荷物と機体を爆発物検知装置で調べたが、何も見つからなかった。

航空局によると、空港でこのような爆弾騒ぎがあったのは初めてであるが、当局者は定められた手順に従って迅速に行動したとのこと。

エア・マラウイは今回の事件には愕然とさせられたが、同様の事件を防ぐためセキュリティの強化をはかるという。

テレビ・マラウイ、全国カバーへ

【6 月 12 日】

テレビ・マラウイは 6 月 3 日、新しい送信機を設置後、まもなく国のほとんどの地域に向けて電波を放射すると発表した。

テレビ・マラウイは視聴範囲を広げるためにブラントアヤとリロングウェに送信機を増設する。また、南部の大部分をカバーするソンバと中部の大部分をカバーするドーワ、チティバを除く北部のほとんどをカバーするムズズにも送信機を設置する。

テレビ・マラウイは 3 月に放送を開始し、現在、1 日に 2 時間放送している。

ムランジェ病院、焼け落ちる

【7 月 19 日】

7 月 11 日、マラウイ南部のムランジェ地区で病院で火災があり、薬、食料、冷蔵庫、キッチン、リネンなど 1000 万クワチャ(約 2700 万円)以上が焼けた。火災の原因は明らかでないが、火元は食料庫で、次第に建物の他の部分に広がった。焼けた建物のコストは推定できないという。

この地区には消防隊はないが、病院周辺の住民により病院の他の建物への延焼がくい止められた。

キッチンが焼けたので、患者の食事は 3km ほど離れたムランジェ高校で作られている。病院は、焼けた設備により起こっている各種困窮状態を緩和するため、現金その他の寄付を要請している。

《投稿》

マラウイの現実を考える

JOCV マラウイ派遣 昭和 63 年度 3 次隊

鉦業 松平隆一

1999年4月、約3年ぶりにマラウイに1週間ほど行って来た。航程は南回りのバンコク、ヨハネスブルグ経由ブランタイア行きで、費用は約17万円で以前より安くなっていた。ヨハネスブルグからブランタイアは直行便で約2時間、席はほぼ満席だったが、マラウイ人がほとんどいないことが不思議だった。私は1992年に協力隊員活動を終了した後も度々マラウイを訪問しているのに、特に懐かしいとか感じるものはなかったのだが、今回はマラウイの現状に触れて大きく考えさせられた。何と書いていいのだろう、いわゆる生活レベルが以前にもまして落ちていると見え、この国の危機感というようなものを感じた。

ゾンバで現地在住の日本人宅に滞在させてもらったのだが、ゾンバの治安の悪化、その他マラウイの現状について情報を得ることができた。紙面の都合と不正確な部分も多い情報なので、この場で示すことができないが、私が特に感じたことは、先に述べたマラウイに対する危機感なのである。私は学者ではないのでマラウイの現状を正確に分析しデータと理論で示すことができない。ただ皆さんに、かつてのマラウイ以上の危機的状況の中で、多くのマラウイ人が苦悩に満ちている(私はそう感じた)ということ伝えたい。

ゾンバのオープンマーケットに行き、写真を撮ったがマラウイ人の笑顔が少ないのに気がなった。以前に比べて笑顔が少なすぎる。もはやマラウイはそこまで最悪の状況なのか?あと、人が少なくなったように感じた。老人はほとんど見かけないし、子供もそれほど多くない。気のせいであろうか?

町のどこのスーパーマーケットの入り口にも、その日食うのに困った人々が溢れていた。苦悩に満ちた人たちの顔をまともに見ることもできなかった。ひとたびクワチャを誰かにあげたら何十人も人間が集まってきそうで危険であった。買い物は車で行って素早く済ませなくてはならない。この物乞いの人たちの数は異常すぎるし、彼らには先が長くないような悲壮感がある。もはやどうしようもないのであろうか?私には何もすることができなかった。ただならない悲惨な現状である。

マラウイの将来を考える時、まず人々を考えなくてはならないだろう。教育と医療、HIV、マラリア、ビルハジア、その他多くの感染症。日本がどんなに援助、国際協力活動をして、次から次へとマラウイ人が亡くなってしまえば何もならない。また、さらに重大な現実、現地在住の日本人にも感染症の蔓延、治安の悪化により、危険が増大していることである。

泥棒に入られ家財道具の何から何まで持って行かれた協力隊員の気持ちを考えて、やり場のない憤りを感じる。外国人に対する犯罪が続発している。現地の協力隊員に対する、より強固な支援を関係者をお願いしたい。

マラウイの暗い部分について書いたが、マラウイ人にはマラウイ人の価値観や感じ方があるであろうからそれを聞いてみたい。マラウイ人は今の世の中をどう思っているのだろうか?満足しているのだろうか?諦めているのだろうか?自分さえ良ければそれで良いのだろうか?子供達は将来に希望を持っているのであろうか?

情報を得て、日本にいる我々が何ができるか、できないかを考えて、できることは実行し、そ

れがあまりにも微力すぎても、それが私のマラウイにいる友人達にできることであると思っ

写真展「マラウイの野生動物」を開催して JOCV マラウイ派遣 平成7年度2次隊

生態調査 栗原智昭

「写真展をやりたい」そう思った。生態調査隊員として在任中、僕は任地であったリウォンデ国立公園を中心にマラウイの動物と自然をフィルムに収めつづけた。これをみんなに見てもらいたい。そして僕が見て体験したアフリカ=マラウイの片鱗だけでも知って欲しい。



リウォンデ国立公園の象

2月の初めに帰国し、主だった挨拶回りが終わったころから会場探しが始まった。「お金がからず、すぐに使わせてもらえ、しかもみんなが訪れやすい場所」そんな都合のいい場所を提供してくれたのは財 福岡県国際交流センターだった。写真展の日程が確定したのが3月後半、そして写真展開催がゴールデンウィークを挟んでの4月22日～5月7日。暇を持って余しているとはいえ、自分でも驚くほどのペースで写真展が実現した。

開催前から取材にきた毎日新聞、九州朝日放送に続き、NHK福岡放送局からも出演依頼が来た。来場者は...残念ながら「大入り」とは言いえないものの、毎日少ないながらも本当に熱心に見て行ってくれる人がいた。感想ノートには人それぞれの共感の声が残されていた。自分の写真が人々に何かを伝えているのだと言う手応えを感じることができた。多くの旧友たちに再会できたのもこの写真展のおかげだ。

この写真展がきっかけで、後日母校である県立高校の文化祭に招かれた。その後も高校、小学校などで話をしたり、写真を披露したりする機会に恵まれている。一部の写真は「地球の歩き方・東アフリカ編・1999～2000年版」のページを飾った。



東京の写真展会場での筆者

(編集部注)栗原氏は、福岡での写真展の後、7月23日～8月4日に、東京都千代田区にて、写真展「ロボットカメラが見たアフリカの野性」を開催した。同展では、マラウイ・リウォンデ国立公園で、遠赤外線センサーを利用したロボッ

トカメラ(無人撮影装置)で撮影された野生動物写真が展示された。また、8月19～22日に富山市で開催される「第4回世界自然・野生動物映像祭」においても、作品を出展する予定。

《テレビ番組情報》

マラウイ湖のナマズ、

NHK-TV『生きもの地球紀行』に登場

平成11年6月7日のNHK総合TV『生きもの地球紀行』で、「アフリカ・マラウイ湖 巨大ナマズの不思議な子育て」と題して、マラウイ湖のナマズが紹介された。現地での撮影には、JICAの佐藤専門家が協力した。なお、同番組でマラウイが取上げられたのは、これが初めて。(番組時間:44分間。再放送6月14日衛星第2放送)

訃報

村上 美樹雄 JOCV OB ご逝去

JOCV マラウイ OB(昭和62年度2次隊)の村上美樹雄氏が、脳性マラリアで重体となり、南アフリカへ移送途中の機上で、平成11年5月16日、亡くなられました。享年39歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

村上氏は、マラウイでの隊員活動終了後、再びマラウイへ赴き、現地で事業を営んでおられました。マラウイをこよなく愛され、非常に面倒見のよい人柄から、マラウイ人からはもとより、在留邦人からも信望が厚く、頼りにされておりました。

5月29日にマラウイ・リロングウェにて現地での「お別れ会」が、6月11日に京都府峰山町のご実家で告別式が行われました。また、8月21日には、東京・広尾のJOCV訓練研修センターにて、有志による「偲ぶ会」が予定されています。

《出版物情報》

「地球の歩き方・東アフリカ編」

改定版(1999～2000年版)

定価1,740円(税別)

「地球の歩き方・東アフリカ編」の最新版が、ダイヤモンド・ビッグ社より平成11年5月末発行された。同書には'86年発行の初版以来、本編で毎回16ページ以上が、マラウイのページとして割り当てられているが、今版では、'90～'91年版以来、2度目となる大幅な同ページの内容刷新が図られた。また、'94～'95年版より日本マラウイ協会が紹介されているが、今版でも同様に掲載された(ただし、電話番号/FAXが旧番号のまま)。

写真集

「COSTA RICA The Birds Paradise」

定価2,000円(税別)

著者の神田君夫(JOCVマラウイ派遣平成2年振替)氏は隊員時代もマラウイ中の国立公園等を歩き回り、鳥や動物等のネイチャーフォトを中心に撮影活動をしてきたが、帰国後は、コスタリカを中心に中南米諸国で活動を行っていた。

その成果をこの度、まとめあげたのがこの写真集である。

この中では、アステカ文明の時代より神として崇められてきたという神秘の鳥「ケツァール」をはじめ日本では見られない美しく且つ珍しい鳥たち、そしてコスタリカの雄大な自然を美しく描写している。

また、コスタリカをテーマにした写真集の中でも野鳥をテーマにした写真集はおそらく世界初であり、世界に向けて発信するためすべて日本語・英語・スペイン語で掲載。写真の一部はホームページにて掲載中。

(<http://www2.osk.3web.ne.jp/wwgkanda/>) 同ホームページには、マラウイで撮影した写真も掲載されている。

注文方法 郵便番号、住所、氏名、電話番号、電子メールアドレス(あれば)、写真集数量を明記し、葉書または FAX にて、下記住所または FAX 番号に直接送付。代金の支払は、写真集に同封される郵便振替用紙で。

〒577-0808 東大阪市横沼町 3-5-24
(有)ケツァール 神田君夫 宛
FAX:06-6224-1328

日本マラウイ協会 平成 11 年 1 月～6 月 活動概況

(1) チェワ語辞典改訂版作成の件

【1～6月】

'87年に発行された「チェワ語辞典」ならびに「Chichewa Textbook」をベースにした「チェワ語辞典改訂版(仮称)」を平成11年度末に発行すべく、編集委員会(幹事:河野)を設立、編集作業に着手し、7月末までに元稿の大半の作成が完了した。校閲等については、広く、マラウイ関係者に協力を依頼することとなった。

(2) その他の出版物等について

【2月】

機関紙 KWACHA 21 号を発行(部数 300 部)。なお、各種イベント等における配布の需要が増加しているため、次回発行分(22号:本号)から発行部数を 400 部とすることとした。

【3月】

旅行ガイドブック新訂第2版を、300部増刷した。なお、当会の労務力の制約上、最新のバス・船舶運行情報、物価情報等を入手し、更新することが困難であったため、インターネット、鉄道運行関連等の一部記載だけを修正し、ほとんどの内容が前刷('97年)と同じものとなった。

(3) マラウイ外務省からの学校建設への支援打診に対する対処について

【これまでの経緯】

昨年5月に、当会訪問視察団がマラウイ外務省を訪問した際、当会はマラウイに対する援

助協力活動資金(100万円プロジェクト(仮称)経費)を用意していることを示唆した。これに対して、マラウイ外務省リベンガ事務次官より、本資金を学校建設の費用の一部として提供できないかどうか書簡にて打診があった。

【3月】

上記書簡に対して、平成11年度事業計画予算案策定とあわせて検討の上、別途回答する旨、当会専務理事名で返信した。

(4) 草の根資金協力案について

【～6月】

100万円プロジェクトの一案として、外務省在外公館扱いの「草の根資金協力」を活用する方法が提起された。例えば、現在派遣中の JOCV 隊員とタイアップし、学校等の建築物(形として残るのが望ましい)を供与するような案件を管轄の在外日本大使館に要請し、必要な資金の一部を当会が提供するようなもの。この案も、100万円プロジェクトの実施候補として、検討することになった。

(5) 高校生の社会科 自主学習への協力

【2月】

千葉東高等学校2年の一学生より、社会科の自主学習課題として「マラウイの保健」についてレポートを作成するため、資料等を提供し

日本マラウイ協会情報

チェワ語辞典改訂版(仮称)発行のお知らせとお願い

日本マラウイ協会では、'87年に発行された「チェワ語辞典」ならびに「Chichewa Textbook」(文法、日常会話、医療編)をベースにした「チェワ語辞典改訂版(仮称)」を発行すべく、編集委員会(幹事:河野 進、JOCV マラウイ OB・63/1 次隊)を設立し、現在編集作業を進めております。

前述の既刊書は、その当時の JOCV マラウイ派遣隊員および OB/OG が中心となり、編集、発行され、その後の JOCV 派遣隊員などが活用してきたものです。しかし、いずれも、在庫がなくなり、再版の問い合わせが相次いだことになった次第です。改訂版発行をご了解いただくと共に、改訂版作成にあたり既刊書編集の際に使用した資料等を提供していただきました先輩諸氏に、この場を借りてお礼申し上げます。

ところで、この「チェワ語辞典改訂版(仮称)」の発行にあたり、同書原稿チェックにご協力いただけますよう、マラウイ関係者の皆様をお願い申し上げます。チェワ語をあまり使用されなかった方、帰国後年数が経ち、記憶に自身が持たない方でも構いません。ご協力していただく内容は、お送りする下書き原稿をチェックし、間違い、過不足などを指摘していただくだけです。つきましては、ご協力に応じていただけます方は、下記へ9月末日までにご連絡いただけますようお願いいたします。ご協力いただきました方へは、特典として、完成したチェワ語辞典(仮称)を進呈いたします。

問い合わせ/連絡先:河野 進(こうの すずむ)

TEL:042-351-9734 E-mail: kouno@eva.hi-ho.ne.jp

日本マラウイ協会の刊行物

(1) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版 A4 版 40 ページ 1 部 1,000 円(送料 310 円)

(2) マラウイ旅行ガイド 新訂第2版「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5 版 108 ページ 1 部 1,200 円(送料 310 円)

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座宛に、代金および送料をお送りください。その際、振込用紙通信欄に「xxxx xx 冊希望」と明記のこと。

ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、毎月第3土曜日 15:00～に、東京都内(通常は JOCV 広尾訓練研修センター 1F 研修室 2)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは、下記の当協会までお問い合わせください。

日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合 1,000 円 + 3,000 円 = 4,000 円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安くて便利です)

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24

青年海外協力協会気付 日本マラウイ協会

TEL:03-3568-0908 FAX:03-3568-3585

E-mail: hi-ueda@mwc.biglobe.ne.jp

電話/FAX 番号が平成 11 年 6 月から変更となっております。ご注意ください。

三和銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739

口座名義人:日本マラウイ協会 名誉会長 卜部敏男

郵便振替 00190-7-13125 加入者名:日本マラウイ協会